

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 上津役 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、2年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

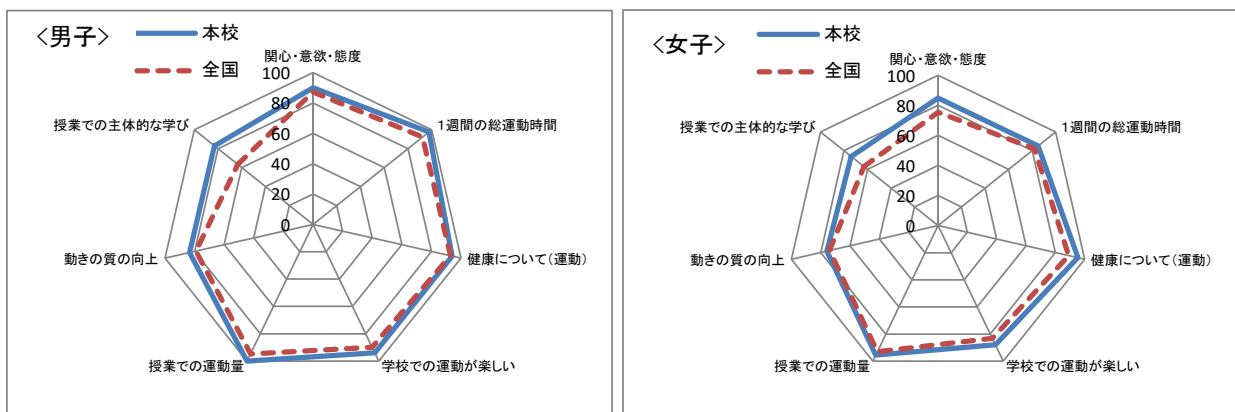
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

男女ともに概ね全国の平均を上回っている。特に「授業での主体的な学び」は、全国平均を大きく上回っており、授業での目標の提示をしっかりと行うことで、生徒にとっても見通しの立った「授業での主体的な学び」ができてるものと思われる。しかし、これは、全国平均を上回っているとはいえ80%前後であり、より多くの生徒が目標を持って授業に参加できるよう現在の取組を継続させていく必要がある。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で)

限られた環境の中で精一杯体を動かすため、例えば、リレーの学習ならば、体育の時間でクラスごとにバトンを受け渡す場所やタイミングなどの作戦を立てたり、クラスマッチであれば、大縄跳びで、とぶ順番を考えるなど、運動が苦手な子をクラスのみならずでフォローする雰囲気を作り、全員が充実した時間となるように取り組む。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

家庭でも手軽に行える運動(ストレッチや体幹トレーニングなど)の紹介を続けていくことや体カテストに向けての動機づけを積極的に行い、通信等で家庭にも学習内容を知らせることで、コロナ禍での体力の維持向上に努めたい。